

9月

行事予定



開山会

今夕のご縁日

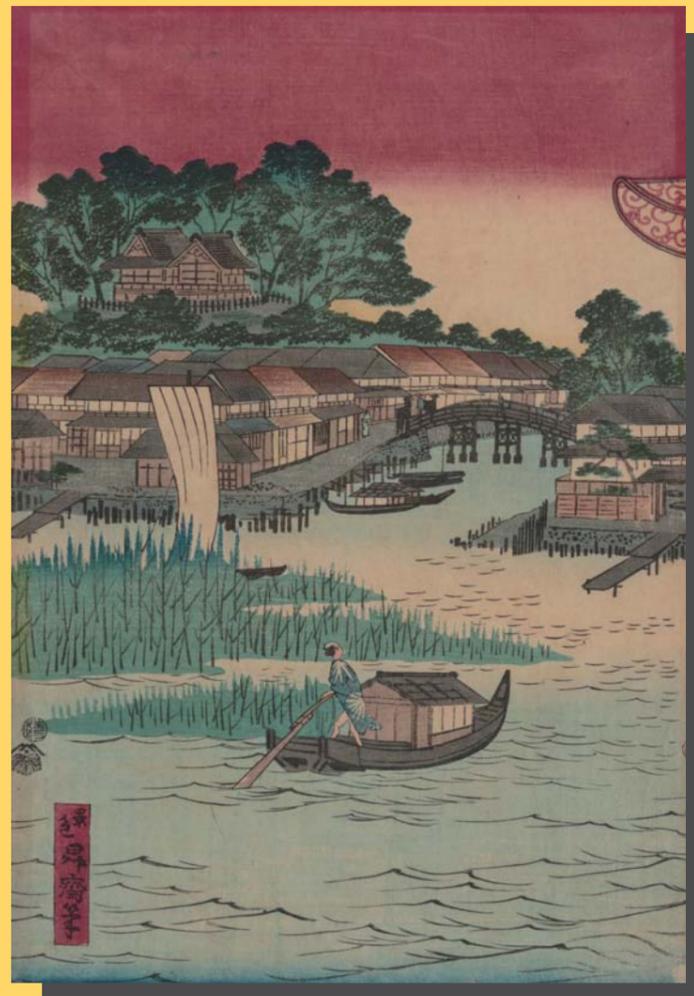
当山開山を祝し、特別法要を執行致します。
お申し込みいただいた方には、お札とお供物
をお授け致します。

※本年のお抹茶接待はございません。

寺務所にて
受付中

9/20(火)
午前11時~

講金
3000円



※感染対策にご協力の上、法要にご参加いただけます。
(感染状況に応じて、変更する場合がございます)

※感染対策にご協力の上、法要にご参加いただけます。(感染状況に応じて、変更する場合がございます)

月間
行事

朝まいり会
正五九大般若法要

9月7日(水) 午前9時

合同大般若法要 法要料:5000円也
皆様とご一緒にお上げする御礼の法要です。

9月25日(日) 午前11時



朝まいり会 9月1日~7日 午前8時~8時半
会費:500円也 定員:15名



毎月1日から7日(正月は8日から14日まで)開
催しております。

お勤め入門 9月4日(日) 午前9時
会費:無料 定員:30名

住職が経本を用いたお勤めの仕方を実践を交えながら解説いたしま
す。 ※経本と念珠をご持参ください。

坐禅の会 9月24日(土) 午前9時半~10時半
会費:500円也 定員:30名

写経の会 9月10日、11日(土、日) 午前10時
会費:500円也 定員:両日36名ずつ

第2日曜日とその前日の土曜日の計2日、それぞれ午前10時の開催と
なります。

予約は毎月15日より **080-7419-1297** まで。



皆様からのご質問、お知りになりたいことを受け付けております。
ご意見やご質問は ityou@matsuchiyama.jp までメールをお送りください。



いちよう

2022年9月号

令和4年8月20日発行/No.357

発行所: 待乳山 本龍院

〒111-0032 東京都台東区浅草7-4-1

☎ 03-3874-2030

「抜苦与楽の妙用」

住職 平田真純

「待乳山聖天宮略縁起」によれば、推古天皇の御世この
地域が一滴の雨も降らない大干ばつに襲われ、農作
物は実らず、灼熱地獄に万民が、ただただ苦しみにあ
えていたところ、十一面観世音菩薩の化身であられ
る大聖歎喜天(聖天様)が、そのありさまを憐れんで、
このお山に降臨し救済されたとあります。

このくだり、原文では「十一面観世音の応作大聖歎
喜天、衆生悲愍の慈眼を開き、抜苦与楽の妙用を顕し
て此の山に降臨し、天下万民悩乱の苦を救済し給う」
と説かれています。

人智を超えた神仏の力が奇跡を起こしたとも読み取
れますが、それにとどまらず、「抜苦与楽の妙用」とい
う言葉から、さらに深い思想が感じられます。

「抜苦与楽」とは、衆生の苦を抜き、楽を与えるという、
仏の慈悲を象徴する言葉です。「妙用」とは、その絶妙
なはたらきをいいます。なぜ絶妙かということ、そのは
たらきが、私たちが仏・菩薩から御利益をいただく
だけという一方的な救済とは必ずしも限らないからです。

私たちが仏・菩薩に祈願するときは、ただただすが
ることが多く、それも決して間違いではありませんが、実は知らず知らずのうちに、結果的に、仏
様に私たちが本来持つ智慧の眼を開かせていただき、自らの愚かさも学びながら、前進する根
気や勇気を与えてくださるということこそが最も大きな功德ではないかと思ひます。そのお導き
が絶妙であるわけです。

推古帝当時干ばつに苦しんだ人々も、大日如来様からの流れを受け継ぐ一尊であり、観音様の
化身である聖天様に祈ることで、悲嘆にくれるばかりでなく、心の曇りも晴れ、難題の克服にも
前向きに対処する智慧や勇気を授かったのではないのでしょうか。

来る9月20日は、待乳山の開山記念日です。1400年余りの歴史の中、多くの人々の祈願のオー
ラを感じていただければ、または御想像いただければ幸いです。



仏飯について



9月になり新米がおいしい季節になりました。お米好きの私は毎年この時期を楽しみにしています。ところで、近年健康維持やダイエット目的に炭水化物、特にお米を控えめに食べるロカボダイエットがはやっているそうです。私も一時低炭水化物ダイエットを試みたことがありました。結果としてかえってお米のおいしさを思い出し毎日山ほどお米を食べています。

閑話休題、今回は仏様にお供えする物としての仏飯について触れようと思います。仏飯は、基本的に寺院では洗米をお上げすることが多いですが、待乳山の聖天様には炊いたご飯をお上げします。

仏様は香りを召し上がるとも言われているため、炊きたて一番のご飯をお供えすることは有意義であります。またご家庭においては、今日もご飯を食べられることは仏様のお陰でありその感謝の為にお供えするという意味から、お供えした後は固くなる前に「お下がり」として家族でいただくのが本来の形となります。

昨今の食習慣の変化からご自宅で聖天様のお札に仏飯を上げる習慣がない方もいらっしゃると思います。是非ともこの機会に、仏飯を上げて日頃の感謝を伝えてみてはいかがでしょうか。

仏様は香りを召し上がるとも言われているため、炊きたて一番のご飯をお供えすることは有意義であります。またご家庭においては、今日もご飯を食べられることは仏様のお陰でありその感謝の為にお供えするという意味から、お供えした後は固くなる前に「お下がり」として家族でいただくのが本来の形となります。

昨今の食習慣の変化からご自宅で聖天様のお札に仏飯を上げる習慣がない方もいらっしゃると思います。是非ともこの機会に、仏飯を上げて日頃の感謝を伝えてみてはいかがでしょうか。



～天水桶(てんすいおけ)～

本堂外周りに大きな巾着の形をした桶や筒状の桶が計4基ございます。これらは天水桶と呼び、江戸時代には桶に天からの雨水を溜め、防火用に軒先や屋根の上に置き使用していたそうです。現代では基本的には防火用に用いることはなく、軒先等のかざりとして扱われることが多いようです。巾着・大根・四ツ銀杏など待乳山にちなんだ印をあしらった天水桶は江戸情緒あふれる待乳山の境内にとけこんでいます。堂内のお参りを済ませたら、天水桶を眺めながら堂外を一周し、江戸の街並みに思いを馳せてみてはいかがでしょうか？



行事報告

「出世観音供養会」

7月17日(日)出世観音供養会を執行いたしました。日曜ということもあり、多くのご信徒様にご参加いただきました。暑い日にもかかわらず、出世観音様ご宝前にて、皆一緒に熱心に参拝されておりました。



「七五三」

御宝前にてお導師が無病息災を祈念し、お加持をお授けしました。健やかな成長をお祈り申し上げます。

小関誌乃さん(7才)



「常香講」

7月20日(水)常香講大般若法要を執行いたしました。

ご参加されたご信徒様は感染対策を行なった上、内陣で焼香、ご参拝をしていただきました。

1日も早くなんの制限なくご参拝いただける日が来ますようお祈りいたします。



訃報

平田真徳先々代住職の代より尊天様に仕えられ、また浴油行者としても長年当院を支えられた高橋恒義師が7月16日ご遷化されました。享年90歳
謹んでお悔やみ申し上げます。

